

## 特別寄稿

社会の要請に応える看護の質向上を目指して  
～看護学部と看護部が共に学び、高めあえる環境づくり～

Toward a High-quality Nursing Care that Meets the Public Expectation:  
To Make an Environment in which the Faculty of Nursing and the Department of  
Nursing Learn Together and Improve Each Other

大阪医科大学附属病院 副院長・看護部長  
小野 恵美子

大阪医科大学の看護教育においては、昭和4年に大阪高等医学専門学校附属看護婦学校として開設以来84年の歴史の中で、平成22年に看護学部が設置されました。

平成26年3月には看護学部が完成年度を迎えると共に、この度、看護学研究科博士前期課程・博士後期課程が同時に開設されましたことは、大阪医科大学の看護教育が更なる発展を遂げた証であり、誠にめでとうございます。

医療を取り巻く環境は、少子化・超高齢化の波が押し寄せ、臨床現場の看護密度はますます濃くなっており、看護職の需要が更に高まっています。また高度医療に伴う倫理的課題が複雑にからみあい、まさに激動の時代を象徴していると言えます。

一方、国民の医療に対する意識は、安全・安心の重視とともに、量から質の向上をより重視するといった方向へ大きく転換してきています。このような環境の変化及び、人々の多様化する価値観に応じた対応が求められ、看護職には質の高い医療サービスの提供者として今後ますます幅広い役割を担っていくことが期待されています。

看護職は様々な領域において、診察・治療等に関連する業務から患者の療養生活の支援に至るまで幅広い業務を担い得ることから、「チーム医療のキーパーソン」として医療現場からの期待が大きくなっています。更に医療ニーズの高い在宅療養者の増加に伴い、訪問看護など看護職が果たす役割が大きくなっており、在宅医療をより一層推進するためには、優れた判断力や技術を有する看護職の活躍が必要不可欠となっています。

当院は大学病院として、高度先進医療を担う役割及び教育・研究を併せ持つ施設であり、看護においても高い専門性が求められています。

看護とは、生命の誕生から看取りまでの過程の中で、あらゆる対象に「人が人として生きる」ための支援を探求していくことが求められ、専門教育だけでなく、柔軟な思考をもって人間を理解することが極めて重要であると考えています。

これらの状況を踏まえ、科学的な根拠を持った判断ができ、人間性豊かな実践力のある看護職の育成が必要であり、その前提には、ひとりの人間として常識ある社会人としての成長も欠かすことはできないでしょう。

前述したように社会の状況を踏まえ、資質の高い看護職を育成するためには、看護学部と看護部がお互いに連携・補完し合い、方向性を定めていくことが極めて重要であると思えます。

現在も看護学部の教員の方々には、看護部の現任教育の研修に講師として協力して頂いたり、看護部の臨床指導者が基礎看護学技術演習指導に参加するなどの人事交流を図っています。

しかしより相互が学び、高め合えるためには、教育方法の一つである問題解決型学習法 PBL(Problem Based Learning)・チュートリアル教育などで、ファシリテーターとして臨床の看護職がチューターとしての役割を担うことで、臨床現場により近い場面を想定した演習授業が展開できると考えます。このことは事例を通して問題解決能力を育むと共に、臨床の看護職とのコミュニケーションを円滑にする機会ともなり、看護学部と臨床との乖離を少なくさせ、新人看護職が入職した際のギャップを軽減させることに繋がってくるといえます。更に看護研究によってエビデンスとなる科学的知識を向上させることや、看護実践を看護学として体系化していくためには、看護実践研究センターとの協力は不可欠であります。

また患者サービスの観点から、看護の専門性をより発揮し看護専門外来機能の充実・充足を図るうえでも相互の連携は非常に重要になってきます。

今後は更に看護学部の教員が附属病院で勤務したり、附属病院の看護管理者や臨床指導者が看護学部で勤務するなどの人事交流を継続的、効果的に行うシステムを構築することで相互の資質の向上が図れると考えています。

このように、看護学部と看護部がベクトルを同じくして、相互に学び合う環境を整備し、大阪医科大学の建学の精神であります「国際的視野を持つ人間性豊かな良質の医療人育成」を目指して努力を重ねて参りたいと思えます。

そして看護学部の卒業生達が社会の要請に応える専門性の高い看護実践の担い手として、看護の質向上に寄与されることを期待しております。